

業務の取組体制、設計チームの特徴、特に重視する設計上の配慮事項（様式 -4-1~4-3 に記載する内容を除く）、その他の業務実施上の配慮事項

## 「英知・忍耐」を信条に、一人ひとりが輝き、人間力を育む「学び舎」を目指します

### 【業務の取組体制】

#### ■様々な意見を的確に取入れ、設計に取込む

- 子どもたち一人ひとりの新生「視覚支援学校・視覚障害者情報センター」への想いを具現化するためのパートナーとして、相互間の信頼の上に築かれる対話を基本に、発注者並びに学校関係者、教職員・児童生徒と協働し満足度と完成度の高い設計業務を遂行します。
- 業務開始時に設計上の課題や与条件を課題項目にまとめ、検討項目の決定時期を整理したロードマップにより工程管理を明確化します。
- 業務の各段階において適宜行うデザインレビューや設計レビュー、設計VEにより、品質・コスト管理を徹底します。

### 【設計チームの特徴】

#### ■設計実績豊富な総合力のある設計チーム

- 設計チームは、管理技術者を中心としたコアチーム、技術支援を担うサポートチーム、審査検証を行うチェックチームで構成します。
- コアチームは、公共教育施設や幼稚園、小中高学校及び特別支援校など設計実績が豊富で官庁官繕事業を理解した技術者で編成します。
- サポートチームは、設計品質の確保のため、資料作成等を行い成果に結びつける連携体制を確立しコアチームを多角的に支援します。
- 管理技術者は設計チーム全体の円滑な業務遂行のため、品質・技術コスト及び工程などの多方面に渡る総合的管理を適切に実施します。
- 地域の気候風土に精通した各担当者と専門家との協働の基、技術情報を共有して業務を遂行し、視覚支援校のあるべき姿を実現します。

### 【特に重視する設計上の配慮事項】

#### ■基本構想を踏襲し、5つの上位計画を実現するための具体的な整備方針

宮城の将来ビジョン	第2期宮城教育振興基本計画	第2期県立特別支援学校教育環境整備計画	みやぎ障害者プラン	宮城障害福祉計画
①地域社会との共存	②多様なニーズへ対応	③長寿化を図る	④情報のバリアフリー	⑤情報センターの充実
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の実情に応じた教育空間多様な個性が活かされる空間づくり</li> <li>こもれびの並木通りや香る植物園などの緑地広場など地域との共存の場を提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インクルーシブ教育の実現に向け課題を理解しユニバーサルデザイン導入など多様なニーズを包括する環境づくり</li> <li>利用者ニーズに耳を傾けた学び舎を提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設から運営、維持管理改修を経て、解体に至るまでのライフサイクルを考慮し耐震性をはじめとして耐久性の高い長寿命で永く愛される視覚支援学校を提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内ICTの整備により学びと自立を支援する環境づくり</li> <li>点字表示や触察用目印、音によるガイド機能機器の設置</li> <li>情報交換の場「上杉カフェ」を提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報センター機能を1階に集約配置しアクセス性を向上</li> <li>作業効率に配慮した関連諸室の配置</li> <li>交流ホールや研修室屋外広場など地域交流空間を提案</li> </ul>

地域とのつながり

ヒアリング

基本設計 実施設計  
コスト計画

上杉カフェ

情報センター交流空間

### 【その他の業務実施上の配慮事項】

#### ■子どもたちへのやさしさや愛着のある空間構成

##### 【コスト削減の提案】

- 各機能を効率良く配置し、平面及び断面計画をコンパクト化する事で建設コストを削減します。
- 建設発生土は、外構や駐車場整備に転用し場外搬出量を軽減します。
- PC工法を採用し、躯体工事などの工期短縮を図りコスト削減します。

##### 分棟型から一体型の学び舎



##### 【安全で安心 わかりやすい学び舎】

- 空間把握を容易にする、わかり易い平面計画を基本に、日常環境への適応の仕方を支援する仕組みを取入れます。各フロアや廊下、階段など、感触の違う材料や視認性の高いテーマカラーやサインの採用で自分の居場所が確認できます。

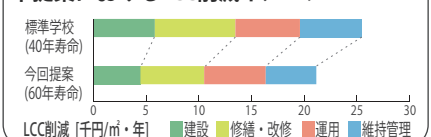
##### カラーバリアフリーを取入れたサイン計画



##### 【環境配慮型校舎によるLCC削減】

- 設備シャフトの明確化によるメンテナンス性の向上、将来の改修や設備機器の更新にも対応しLCCを削減します。
- 学校ZEBの実現に向け学校における省エネや、環境教育の視点を組み入れた環境配慮型校舎とします。

##### 本提案におけるLCC削減イメージ





課題1 視覚支援学校及び視覚障害者情報センターの機能を考慮した建築計画の考え方

### 個別の機能を充実させながら、相互の機能連携が容易な施設計画

視覚支援学校と情報センターに求められる基本機能を的確に把握し、相互に連携すべき機能は高い次元で連携されるべきものと捉え、次の3点を基本方針として整備します。

1. 施設相互の機能連携を充実させる建物配置計画
2. 児童生徒一人ひとりの特性に応じた育成を実現する視覚支援学校
3. 自立や社会参加の促進と地域交流・協働の場となる視覚障害者情報センター

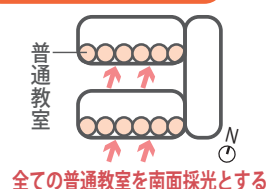
### 1. 施設相互の機能連携を充実させる建物配置計画

配置ゾーニングは、①明快なゾーニング(わかりやすさ)、②明るい空間づくり(教室の南面採光)、③シンプルかつコンパクトな校舎(動線の短縮化)を基本項目として、施設相互の機能連携が充実した配置計画とします。

#### ①明快なゾーニング



#### ②明るい空間づくり



#### ③シンプルかつコンパクトな校舎



■建物配置の基本コンセプト

#### 1-1. 明快なゾーニングによる配置計画

- 校地を南北方向に居住・運動・学習エリアの3つのゾーンに区分し、土地利用を明確にします。
- 寄宿舎から繋がる「メインストリート」を軸として体育館、教室棟、管理棟、専攻科棟、情報センター全ての機能が合築となる明快なゾーニングとします。
- 各エリアを囲む様に敷地との境界部分に歴史ある街並みや周辺丘陵緑地との調和を図る木漏れ日の並木道を配し優しく包み利用者の安全を確保します。
- 新校舎は、現校舎位置を基本とし、専攻科棟は1階に情報センター、1・2階に専攻科を集約し低層に抑えます。既存グラウンドを囲むように屋内運動場と3階建ての一般教室棟を配置し音対策を講じます。
- 敷地境界に対しては、寄宿舎も含め低層建物が面する事で周辺住宅地との調和を図ります。



■メインストリートが機能を紡ぐ

#### 1-2. 敷地特性を活かした配置比較検証

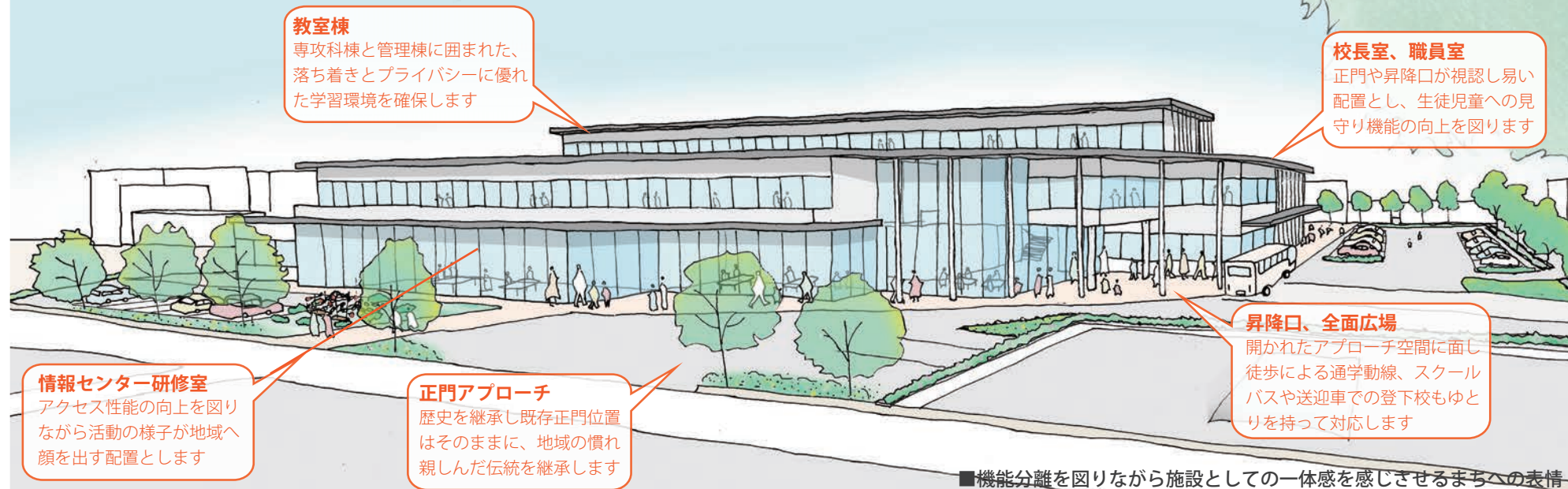
配置計画は、教室の向き、コンパクト化、昇降口の向き、景観配慮を主要事項として比較検討を行い、総合力の高い案を採用します。

ゾーン凡例	A	B	C
■ 教室棟	緑	緑	緑
■ 専攻科棟	青	青	青
■ 管理棟	赤	赤	赤
■ 体育館棟	黄	黄	黄
■ 情報センター棟	紫	紫	紫
■ 寄宿舎棟	白	白	白
■ メインストリート	黒	黒	黒

比較項目	A案	B案	C案
①教室の向き	普通教室全て南向き採光・通風確保可能	教室棟は専攻科棟の隣南向き教室あり	教室棟は専攻科棟の隣南向き教室あり
②コンパクト化	動線の短縮化され一番面積が小さい	コンパクトになるが4階建て動線が長い	3階建て廊下などの面積が大きい
③昇降口の向き	風向きに配慮ホールと一体空間	風向きに配慮	冬期西風の影響ありグラウンド動線確保
④景観配慮	敷地周囲に広い空間を低層に抑えた計画	東住宅地の圧迫感有	道路に面して建物が配置され圧迫感有

■配置比較検討によりA案を採用

## 永い歴史と伝統を継承し 地域と共に育ち 未来へ繋ぎ発展する学び舎づくり



**教室棟**  
専攻科棟と管理棟に囲まれた、落ち着きとプライバシーに優れた学習環境を確保します

**校長室、職員室**  
正門や昇降口が視認し易い配置とし、生徒児童への見守り機能の向上を図ります

**情報センター・研修室**  
アクセス性能の向上を図りながら活動の様子が地域へ顔を出す配置とします

**正門アプローチ**  
歴史を継承し既存正門位置はそのままに、地域の慣れ親しんだ伝統を継承します

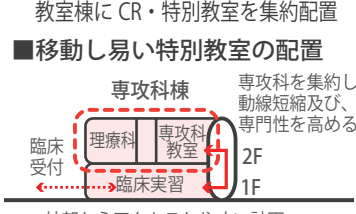
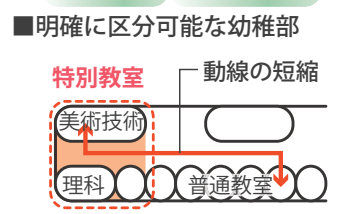
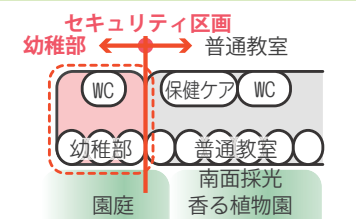
**昇降口、全面広場**  
開かれたアプローチ空間に面し徒歩による通学動線、スクールバスや送迎車の登下校もゆとりを持って対応します

■機能分離を図りながら施設としての一体感を感じさせるまちへの表情

### 2. 児童生徒一人ひとりの特性に応じた育成を実現する視覚支援学校

#### 2-1. 機能や特性に応じながら連携性も高めた児童生徒部門

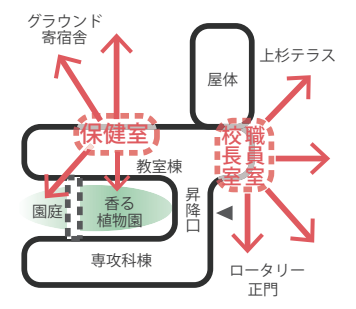
- 視覚支援学校は、小中高学部の教室棟と専攻科棟、屋内運動場にゾーン分けし、管理部門を集約した管理棟との連携性を高めた平面構成とします。
- 教室棟1階西部分に幼稚部教室3室を園庭と共に配置し、単独利用も可能な計画とします。
- 重複教室は全て接地階の配置を基本とし、保健室や医療ケアルームと併設する事で日常利用の安全性確保にも対応可能な計画とします。
- 教室は上下階とも同クラス数と学習室などと並列配置とする事でクラス編成に対応可能な計画とします。
- 特別教室は、教室棟西部2・3階に集約配置し、図書室や資料室は専攻科と共有しやすいメインストリートに面する事で利便性の向上を図ります。
- 専攻科棟1階に臨床実習室、2階に理療科教室や関連諸室を配置し、専門性を高めた計画とします。
- 専攻科棟は、独立配置とし学校と企業連携によるデュアルシステムの導入などの対応も可能とします。
- 学習環境の基本性能の向上を図り、教室は全て南向きとし、児童生徒へ配慮します。



■地域に開いた専攻科棟

#### 2-2. 児童生徒への効果的なバックアップ体制を実現する管理部門

- 児童生徒をバックアップする管理部門は、分棟施設群の中心エリアに配置し、各棟にアクセスしやすくスムーズな指導や支援を可能とします。
- 事務室や校長室、職員室は、正門や昇降口が見通せる位置に配置します。
- 保健室はグラウンドに面して配置し、目視監視が行えるほか、緊急車両の寄付き可能な位置とします。
- 体育館は、日常の利用動線とグラウンドとの相互利用に配慮しながら、管理しやすい配置とします。

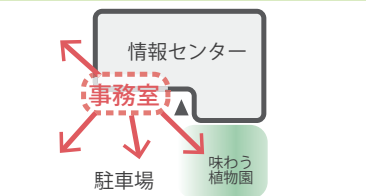


■教職員の目が行き届く管理部門

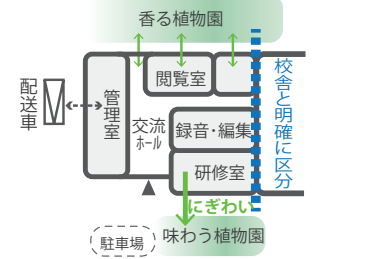
### 3. 自立や社会参加の促進と地域交流・協働の場となる情報センター

#### 3-1. 機能を集約させ効率性を高めながら学校との連携にも配慮した平面構成

- 情報センターは、専攻科棟1階部分に集約配置し接地性を高め利便性に配慮した平面構成とします。
- 校地南西角に事務室を配置し、安全管理を行うと共に関連諸室を集約させ専門的な機能(印刷や貸出送等)に対して効率的な計画とします。
- 研修室は、多種多様な催事に対応し、交流ホールや外部交流広場と一体利用が可能となり、活動の様子が伺えるなど地域に開かれた施設とします。
- 施設内は、ICT環境を整備し情報提供の場として学びと社会自立を支援します。
- スタジオや録音室は、施設中央に配しサウンドロックを設け、騒音の影響を受けない計画とします。
- 歩車共に専用出入口により学校との動線を分離し、緩衝緑地帯を設けるなど安全性に配慮します。



■来訪者を視認し易い事務室



■機能集約した情報センター

#### 3-2. 視覚支援学校と一体的な機能連携を実現する接地階計画

- 視覚支援学校ゾーンの待合ホールと交流ホールが連続し、機能連携の向上を促します。

メインストリート・交流軸・学びの軸が中庭を介して交差し、多様な活動がふれあい賑わいを創出します



■生活軸と交流軸が中庭を介し交差する



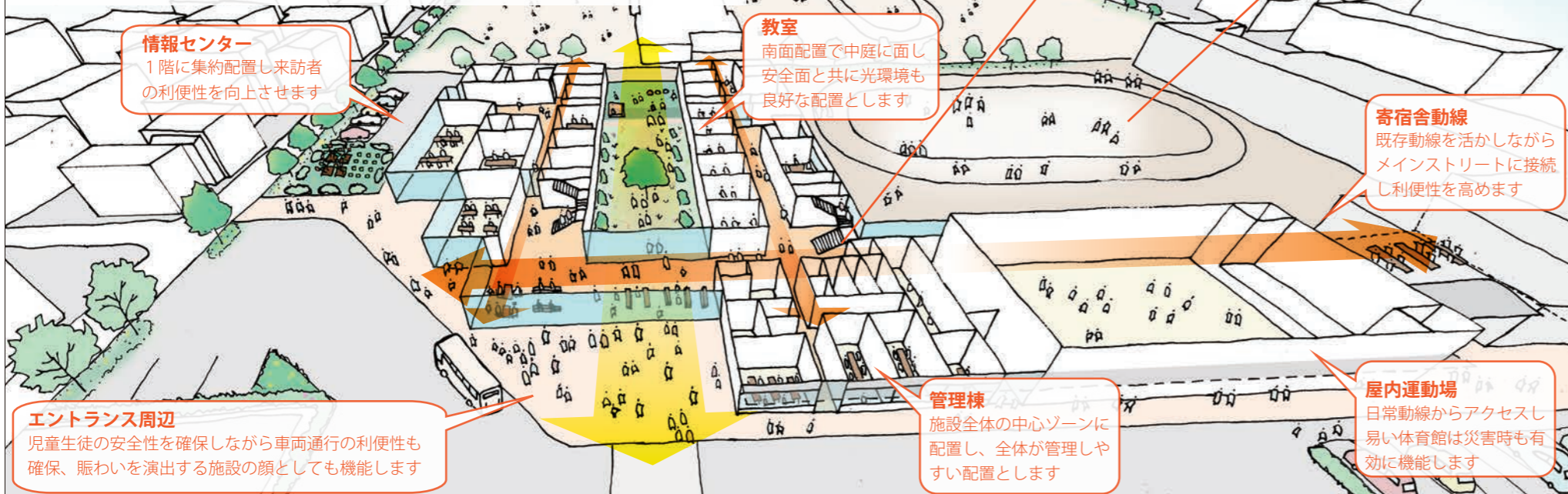
課題2 施設利用者の利便性及び安全性を考慮した建築計画の考え方

# 用途特性を的確に把握したインクルーシブな施設の実現

## 多様な主体（施設利用者）にすべからく利便性・安全性を提供する施設整備

既存施設との連携性向上にも配慮しながら、以下2点を基本方針とします。

1. 明快なゾーニングに基づいた利便性の向上に寄与する施設整備計画
2. 平時非常時ともに施設利用者の安全性を確保する施設整備計画

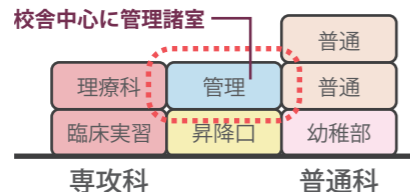


■施設利用者が利便性・安全性を享受する全体像イメージ

### 1. 明快なゾーニングに基づいた利便性の向上に寄与する施設整備計画

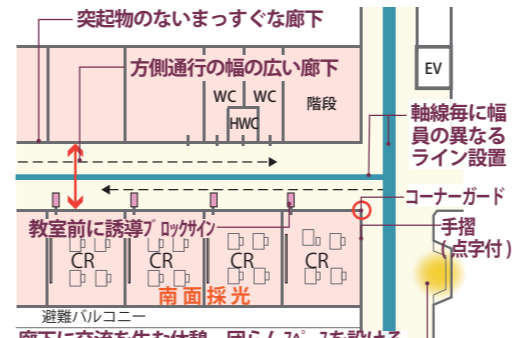
#### 1-1. 利便性を図る動線計画

- 施設のコンパクト化による**明快なゾーニングと動線計画**によって、各施設機能が相互連携し施設利用者の使い勝手向上を実現します。
- 教室棟において、各階の普通教室ゾーン・特別教室ゾーン・管理ゾーン・水廻りの平面上の位置を合わせることで、利便性の向上だけでなく、建物固有の**情報**に対する**バリアフリー**を実現します。
- 各ゾーンを結ぶ動線は、**平面・断面方向**に対して**単純明快なもの**とし、空間把握を容易にします。
- 管理諸室は平面・断面ともに**校舎中心に配置**し、施設全体を管理しやすいものとします。
- 普通科から専攻科への動線は、**園庭・香る植物園上部の2階に渡り廊下**を設け、通行を可能とします。



#### 1-2. 視覚支援学校ならではのユニバーサルデザイン

- メインストリートの生活の軸とC R前の学びの軸、専攻科棟の交流の軸上にある廊下床面に、太さの異なる**識別しやすい色彩**により**センターライン**を引き、**位置認識**を補い**不用意な衝突の回避**を図ります。
- 廊下は広くし、センターラインに対して**まっすぐな片側通行**とし、突起物や段差を無くします。階段も同様に識別しやすい色彩で区別し、**安全安心な計画**とします。
- 手摺は、廊下、階段から途切れることがないように連続性を持たせ建具にも設置するなど考慮します。
- 教室などの出入口部分には**誘導ブロック**によるサインを設置し、安全性と利便性に配慮します。
- 歩行動線を妨げないよう休憩用ベンチの設置を検討し、**団らんスペース**など**交流の場**として活用します。
- 各普通教室は全て南向き**とし、その外部には**寄宿舎**と同様に**避難バルコニー**を設置します。



### 2. 平時非常時ともに施設利用者の安全性を確保する施設整備計画

#### 2-1. 安全性・防犯性の配慮

- 外部に対しては、**管理ゾーンからの視認性を確保**し、地域に根付くことにより地域一体で安全が確認できるよう計画します。
- 歩車分離を明快にし、年齢や経験値だけに頼ることなく**生活しやすい安全な外部空間**とします。
- 園庭と香る植物園は教室棟と情報センターに囲まれた中庭に位置し、**安全性と干渉帯としての機能**を有した配置とします。

#### 2-2. 災害・防災計画

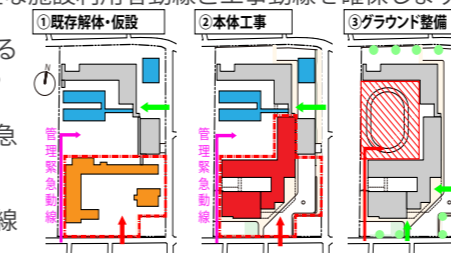
- 災害時には**明快なゾーニングと動線**が**迅速な避難**に対応できるよう十分打合せを重ねて計画します。
- 低層化により、**災害時にも施設利用者が避難し易く**、維持管理・運営がし易くなります。
- 廊下端部に**避難用滑り台**を、教室には**避難バルコニー**を設置します。
- 学校BCP対応として**体育館に備蓄倉庫**、**非常用発電機**、**太陽光発電パネル**設置をします。

#### 2-3. 耐震性や耐久性について

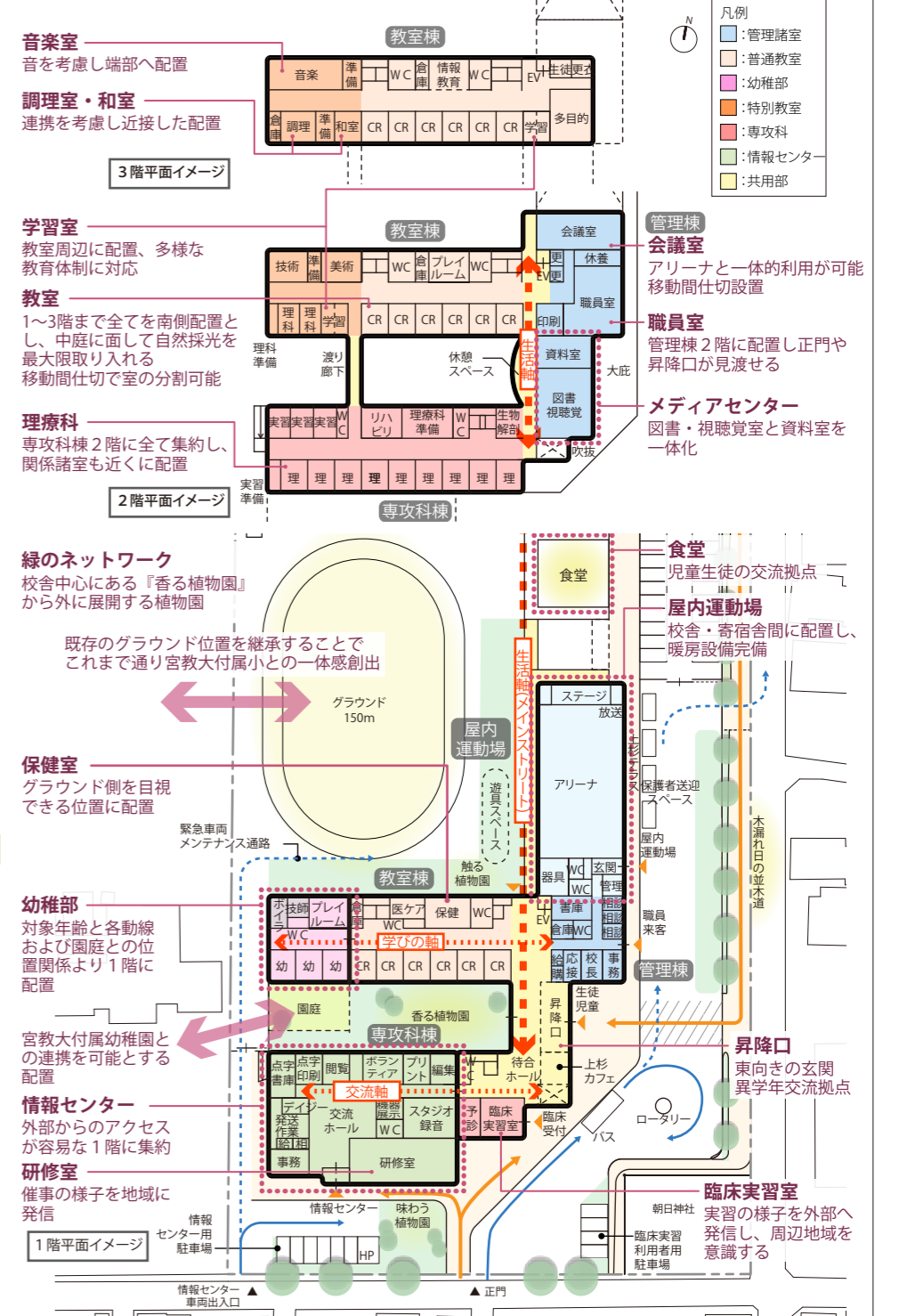
- 学校施設に求められる**耐震安全性II類(重要度係数1.25)**を最低条件とし、利用者の安全に配慮します。
- 非構造部材等は、直天井や軽量材の採用など、**地震による落下事故から機器や人的被害を防止**します。
- 改修に対しては、**使いながら安全に工事が可能な設備計画**とします。
- 使用材料は**耐久性のあるもの**を選定し**将来の維持管理に配慮**します。

#### 2-4. 建設工事中の施設利用者への配慮

- 各工事フェーズに対して**安全な施設利用者動線と工事動線を確保**します。
- ①**既存解体・仮設工事**  
施設利用者動線を最短となる配置とし安全安心を確保する
- ②**本体工事**  
仮設中の施設利用動線、緊急車両動線を確保する
- ③**仮設解体・グラウンド整備**  
管理緊急車両動線を工事動線に転換し安全性を高める
- ①～③における施設利用者用車両動線の安全性も確保します。
- 児童生徒と地域の安全を守る工事計画



### 1-3. 利便性及び安全性に配慮した各階平面構成イメージ





課題3 周辺地域に配慮した意匠上の考え方

# 地域の歴史や環境と共存する新たな視覚支援学校・情報センター

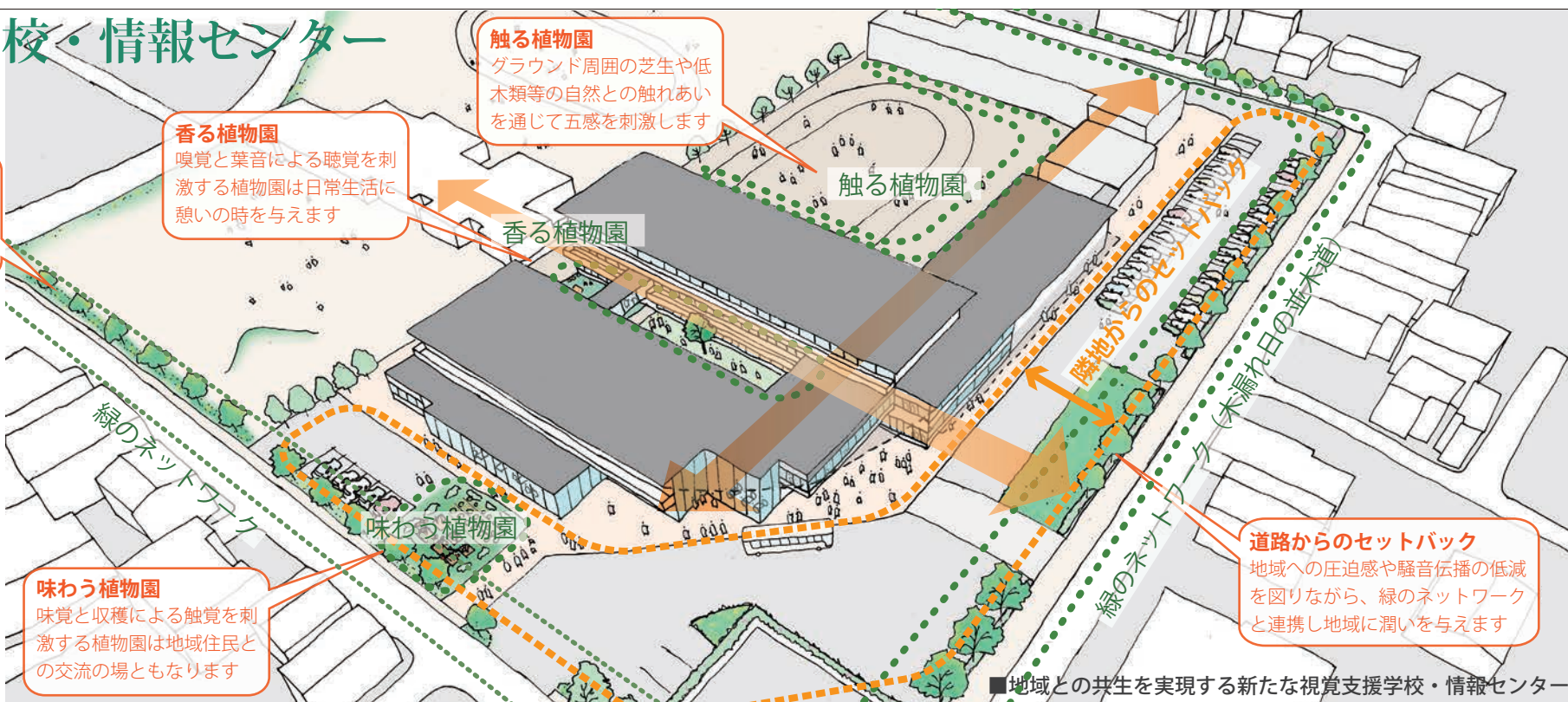
永きに渡り地域とともに歩んできた施設は、装いを新たに、また次の歴史を刻む積上げられた歴史や地域との関係をより向上させる必要があると考えられることから、次の3点を基本方針として整備します。

1. 周辺地域への配慮と貢献
2. 『緑のネットワーク』により誰もが緑の恵みを受取る
3. 施設の見える化による地域共生施設の実現

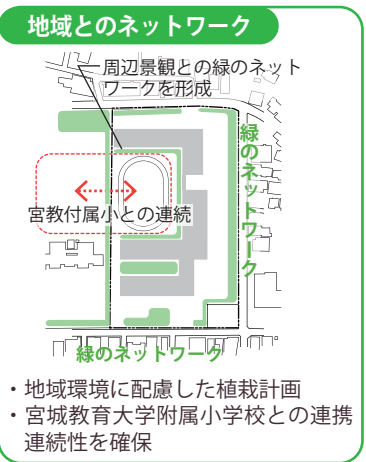
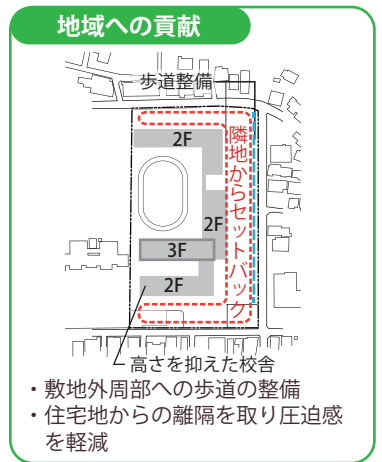
**緑のネットワーク**  
既存の緑の繋がりを敷地内にも取り込み『木漏れ日の並木道』を整備します

**香る植物園**  
嗅覚と葉音による聴覚を刺激する植物園は日常生活に憩いの時を与えます

**触る植物園**  
グラウンド周囲の芝生や低木類等の自然との触れあいを通じて五感を刺激します



**道路からのセットバック**  
地域への圧迫感や騒音伝播の低減を図りながら、緑のネットワークと連携し地域に潤いを与えます



■周辺地域への配慮ポイント

## 1. 周辺地域への配慮と貢献

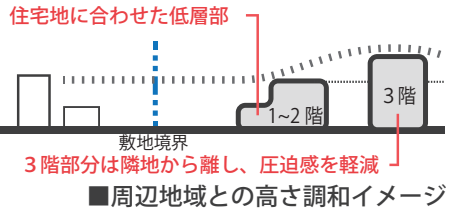
### 1-1. 周辺地域への配慮と貢献



- 外周からセットバックさせた配置計画により、敷地内における児童生徒の歩行動線に対する安全安心性を確保なものとします。
- 計画建物はセットバック及び低層計画とすることで、近隣住宅への圧迫感の解消や日影の影響を最小限に抑えた施設とします。
- グラウンドは、既存建物と計画建物でコの字で挟むことにより、児童生徒の安全性の確保と、周辺地域へのグラウンド騒音の伝播低減に配慮した計画とします。
- 計画敷地西側より続く南道路沿いの緑化を計画敷地にも取り込むことにより、周辺地域との一体感を醸成します。
- 園庭の配置は、中庭の幼稚園教室前とし、宮城教育大付属幼稚園の園庭と近接することで、幼稚園同士の連携を図ります。

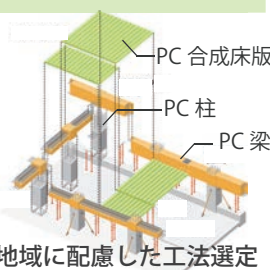
### 1-2. 建物低層化計画

- 可能な限り低層とし、周辺地域に対しての圧迫感を軽減できる建物を提案します。
- 低層化と敷地外周バッファスペースにより、周辺地域の低層環境に調和しながら、地域との一体感や親しみ易さを醸成し、地域と共存する学び舎となります。
- 低層建物と植栽の高さから生まれる住宅地に合わせた低層部  
ヒューマンスケールによって交流が促進される計画とします。
- 杜の都景観計画を踏まえ、地域の景観づくりにも貢献します。



### 1-3. 工事中の騒音対策と地域への負担低減

- 校舎のメインフレームは、鉄筋コンクリート造を基本とし、同一スパンを生かしユニット化したPC工法の採用を検討します(床及び一部壁)。
- 工場製作による高品質なPC工法は、型枠工事やコンクリート打設時の騒音低減が図れるほか、施工時の支保工が不要となるために工期短縮が図れ、児童生徒の生活、学習環境の確保と周辺住宅地への影響を最小限に抑えることが可能です。



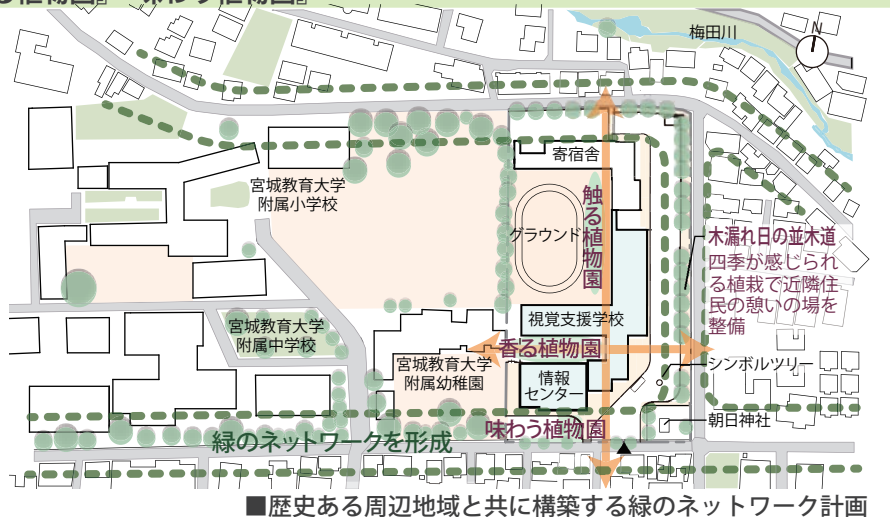
## 2. 『緑のネットワーク』により誰もが緑の恵みを受取る

### 2-1. 『緑のネットワーク』の起点としての『香る植物園』『味わう植物園』

- 中庭にある『香る植物園』から昇降口を貫通して敷地外部へ広がる緑地により、周辺地域と緑でつながる景観を提案します。
- 閉鎖的になりやすい支援学校を緑の景観によって開放し、四季が感じられる植栽で近隣住民の憩いの場となる玄関を整備します。

### 2-2. 『緑のネットワーク』を地域へ

- 道路境界周辺には『香る植物園』の延長として東側に『木漏れ日の並木道』、南側には『味わう植物園』を提案します。臨床実習利用者も通行可能とし、施術後、これらの植物園にふれながら駐車場に向かえるよう計画します。



## 3. 施設の見える化による地域共生施設の実現

### 3-1. 施設の見える化により地域に開く

- 臨床実習室は、実習の内容等により外部に対して透明性のある設えも検討し、生徒の実習の様子を地域に発信します。「見える化」により視覚障害者や施設に対する地域の理解促進を図り、地域共生を実践する施設を目指します。
- 情報センターは1階に集約配置することで、利用者の交流を促すと共に、地域にも開かれ、地域住民が親しみを持ち、地域を育む施設を目指します。

### 3-2. 地域に理解され、共に歩み成長する施設として

- 既存屋内運動場跡地は、これまで児童生徒を包んでいた空間の記憶を継承し、屋外の児童生徒送迎スペースとして蘇ります。昇降口外部スペースは出来るだけ広くすることで、安全に送迎車両およびスクールバスの乗降スペースが確保されると共に、その様子を外部へ見せることで地域住民の理解促進を図ります。
- 情報センターの研修室で行われる催事の様子は、外部に面することで地域に発信できます。地域に開かれ、地域とともに成長する施設を目指します。

